

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191100213		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホーム あさひの家千歳(1階 コスモス)		
所在地	千歳市北陽5丁目4-8		
自己評価作成日	令和2年11月13日	評価結果市町村受理日	令和3年1月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0191100213-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0191100213-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ホーム理念の「ありがとう」～人生の主役はあなたです～を、職員は、念頭におき入居者様の対応をさせていただいております。心優しい職員が多いので、入居者様の目線に合わせて、職員のペースにならないよう、配慮してケアにあたっています。  
 入居者様が退屈しないように、レク企画なども行っております。医療機関と連携を取りながら、健康状態の管理も行っています。入居者様が安心して、安全に暮らせるようサポートさせていただいております。  
 ・身体拘束廃止にも力を入れています。グレーゾーンではないかと思う事も職員で協議し身体拘束のないホームを目指して入居者様に精神的弊害が生じないように努めています。  
 ・ホームが開設して日が浅いため、職員間の連絡事項・ご家族様への伝達遅れなどあり、ご指摘を受けることもありました。ホームの成長課題として、反省と向上心を持って全職員でホームの運営に尽力をつくしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあさひの家千歳」は、令和2年1月に開設した2階建て2ユニットの事業所である。JR千歳駅からバスで15分程の閑静な住宅地に立地しており、近隣にはバス停やスーパーマーケット、ドラッグストアやファッションセンターなどもある。大きな窓に面した居間と食堂は明るく開放感のある造りで、利用者がゆっくり寛げるようにソファなどの配置も工夫している。クリスマスツリーや利用者と一緒に制作した季節の装飾には家庭的な温もりが感じられる。管理者と職員は開設時に作成した理念を共有し、日々実践に向けて熱心に取り組んでいる。食事づくりや掃除などの家事を利用者と一緒に行い、利用者一人ひとりができることを可能な限り継続しながら家庭的な生活が送れるように支援している。介護計画の見直し時には本人と家族の意向を詳細に聞き取り、全職員が個別に評価を行いながら適切なケアについて検討して現状に即した介護計画を作成している。感染症が流行したため地域交流や外出支援は難しかったが、近隣への散歩やプランターでの野菜作りで外気に触れて気分転換したり、調理レクを企画して利用者と一緒に好み焼きや焼きそば、味噌作りをして楽しく過ごせるように工夫している。管理者と職員は優しい笑顔で各利用者に応じた適切な言葉かけを行いながら温かなケアを行っている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日に運営理念・ホーム理念を唱和しており職員の意識付けをしている。	開設時に、住み慣れた地域の中で一人ひとりの個性を尊重し生きがいを持ちながら笑顔で穏やかに過ごせるように寄り添っていくという内容の理念を職員と共に作成している。事業所の要所に掲示し、ユニット会議などでも振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初よりコロナウイルス感染予防のため地域との交流は行えていないが地域との交流をしていきたい。	町内会に加入し、会長と連絡を取りながら今後に向けて協力関係を築いている。感染症の収束後は近隣の幼稚園や小学校などに働きかけ、子供たちとの交流を深めていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現段階では行えていない。今後ホームだより等で地域の人に発信できればと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や地域の方からの意見等を頂戴しサービス向上にむけて取り組んでいる。	感染症流行のため開設後1回のみ開催し、他は書面開催にして事業所の状況や利用者の様子を写真で報告している。今後はミニ勉強会なども取り入れながら情報提供していくことも考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外にも研修の案内や提案等してくださり協力関係をきづいている。	管理者は書類の提出で市役所を訪問したり、介護計画書などの整備について確認している。利用者の受け入れ時に不明な点があれば保護課に相談するなど、普段から相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、交通量が多い道路に面していることや防犯上の理由で施錠している。身体拘束については3か月に1回研修を行っている。	禁止の対象となる具体的な行為を記載した「身体拘束廃止等の適正化のための指針」を作成している。内部研修後は全職員が研修報告書を提出して理解を深めている。利用者が外出しようとした時は職員も一緒に出かけ、安全面に配慮しながら自由な外出を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても研修の機会を設けている。傷やあざ等があった際は報告し防止に努めている。		

グループホーム あさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行っていないが研修予定に入っているため年度内中には行う予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に書類をお渡しし、内容を確認して頂いた上で、当日再度、細かく説明をしている。説明の間に都度、疑問点が無いかの確認を行って、長時間の契約説明の効率化を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見BOXを設置しているが面会制限の期間が長く活用できていないため文章にて意見等募ったことがある。	面会時や電話で利用者の様子を伝え、家族から意見や要望があれば介護記録に記入している。現在は行事を開催した時や普段の様子を写真などで家族に報告しているが、今後は定期的なホーム便りの発行も考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と個人面談がありその時に意見等を聞いている。日常的に職員とのコミュニケーションをとりやすい関係づくりをしている。意見等は法人事務局に伝え反映できる場所はしている。	今年度、管理者は職員面談を2回実施している。処遇面についての意向なども聞き取り、本部と連携しながら離職率を抑えて安定したケアにつなげられるように取り組んでいる。職員は環境整備や献立などの係を担当しながら運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の声をよく聞いてくれている。職場環境が良くなるように掛け合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会は少なかったが研修を受ける機会の確保をしていただいた。資格取得についても声をかけてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスのため行っていない。今後はネットワークづくりをしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	シートを活用し困っていること等を把握しケアにあたり信頼関係が気づけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初は特に密に連絡を取り関係づくりに努めている。またご家族と1か月に1度は連絡をとるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームなので他のサービスの利用については検討していないが、事前のアセスメントから必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを行っていたくことで一方の立場にはおこらずお互いに助け合いながら生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要物品の用意や受診対応をして頂くことにより共に本人を支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナウイルスのため外出制限しているが基本的に外出・外泊は自由に行っている。またホームへ来られることもできるため関係が継続できる。	知人が来訪する利用者もいるが、現在は感染症流行のため継続が難しくなっている。親族から手紙が届いたり電話がくる利用者もいる。今年度は外出も難しいため、感染症の収束状況に応じて馴染みの場所に出かけたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	服を着せる・車椅子を押してあげる等お互い助けあっている。お茶の時間は皆で楽しんで過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様にも必要があれば相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しご家族にご協力いただきながら把握に努めている。	利用者との会話や表情、仕草から思いや意向を把握している。利用開始時にライフヒストリー表を作成しているが、生活状況や趣味嗜好など利用者の現状が分かる書類整備は十分とはいえない。	センター方式シート(B-3)などを活用し、利用者の生活状況や趣味嗜好など利用者の現状を把握するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・ご本人への聞き取りにより把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	シートを活用し職員それぞれに記入してもらうことにより把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やユニット会議にて話し合いの場を設けている。	全職員の意見を集約しながら利用者担当職員が評価を行い、3か月ごとに介護計画を作成している。本人と家族の意向を計画書(1)に記入しているが、計画書(2)に反映できていない部分があるので、更に連動させていきたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の中で気づき等があれば特記事項に記載している。そこで介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	開設し1年ということもありサービスの多機能化まで働きを行っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働ができていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけを無理に変更することはせずご家族・ご本人の希望を優先している。	全員が協力医療機関などの往診を受けている。専門医の受診は家族対応としているが、体調変化に応じて職員も同行している。往診と受診は「受診健康管理記録」に個別に記入している。	

グループホーム あさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも不安なことがあれば医療機関に報告し相談し受診できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員と連絡を取り合い情報交換を行っている。入院した際は早期退院にむけ協力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご説明し意向を聞いている。いつでも変更は可能であることをつたえ終末期が近づいてきた際に改めて聞くことをお伝えしている。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って事業所としての対応を説明し、緊急時の事前確認書をもっている。体調変化に応じて家族と医師、事業所で方針を話し合い看取りもしている。看取り研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが訓練はうけていない。事故発生時のため実践力を身につける必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定で1度避難訓練を行ったが地震や水害は行っていない。	消防署の協力を得て日中の火災を想定した避難訓練を行っている。年度内に夜間想定訓練も予定している。各種災害のマニュアルの整備と地域との協力体制の確認が今後の課題となっている。	火災や地震など災害種別ごとにマニュアルを整備するよう期待したい。災害時の近隣との協力体制についても話し合うよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには気を付けている。尊厳を持った声掛けを行っている。	介護記録は利用者に見えない場所で記入するようにしている。書類についてもキャビネットに保管し、プライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいよう選択肢を用意し飲み物等を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくご本人の意思に沿って支援しているが入浴支援は職員都合になってしまう場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好きなものを身に付けて頂いている。		

グループホーム あさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には好きな食事メニューにし楽しんで頂いている。準備や片付けも一緒に行っている。	月に1回以上行う調理レクでは、利用者と職員が一緒にお好み焼きや焼きそば、味噌などを作って楽しんでいる。日常的にもリンゴの皮むきや食器の後片付けのような手伝いを利用者が行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態を一人ひとりに合わせて提供している。水分も少量を数回に分けたりゼリーで提供するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。不十分な場合は職員が行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易に紙パンツやオムツの使用はせず必要性を検討しながら選んでいる。	立位を保つことのできる利用者についてはトイレでの排泄を支援している。また、病院から退院した際におむつを使用していた利用者が、職員の声かけなどによりリハビリパンツに変更した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や食べ物で自然排便できるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員都合で入浴している場合もあるが出来る限り個々に沿った支援をしている。	入浴の時間は午後を基本としているが、利用者の希望によって変更することができる。香りが良く、保湿性の高い入浴剤を使用することで利用者の身体のケアも含めた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休まれることが多い。居間ではソファーに横になり休まれている姿がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬リストにて服用している薬を確認し不明な点は薬局に連絡を取り確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在行えていない。		

グループホーム あさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウイルスのため外出制限している。	敷地内のプランターでピーマンやなす、トマトなどの野菜を栽培している。感染症流行のため外出が制限されている中、利用者にとってプランターに水を与える作業は外の空気を感ずることのできる機会となっている。また、事業所周辺の散歩などで少しでも外出ができるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの方針では持ち込みを勧めていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるが日の光が入りづらいため日中でも電気が必要になっているので混乱している方もいる。	共用空間にはエアコンを設置して過ごしやすい温度に調整している。脱衣所などの気温が低くなる場所にもヒーターを設置し、安心して生活できるように配慮している。居間には大きなクリスマスツリーを飾り、利用者と職員が一緒に制作した作品を壁や天井に装飾して季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを設置し気の合う方と一緒に過ごせる場所を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れたもの馴染みのあるものを持ち込んでいただくよう説明している。	居室にある家具などの配置については、危険がないように職員が利用者、家族と相談して決めることもある。居室内には利用者がこれまでの生活で使い慣れた椅子やソファなどを持ち込み、居心地のよい生活ができるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋が分かりやすいように目印をつけ工夫している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191100213		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホーム あさひの家千歳(2階 ライラック)		
所在地	千歳市北陽5丁目4-8		
自己評価作成日	令和2年11月20日	評価結果市町村受理日	令和3年1月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0191100213-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0191100213-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ホーム理念の「ありがとう」～人生の主役はあなたです～を、職員は、念頭におき入居者様の対応をさせていただいております。心優しい職員が多いので、入居者様の目線に合わせて、職員のペースにならないよう、配慮してケアにあたっています。  
 入居者様が退屈しないように、レク企画なども行っております。・医療機関と連携を取りながら、健康状態の管理も行っています。入居者様が安心して、安全に暮らせるようサポートさせていただいております。  
 ・身体拘束廃止にも力を入れています。グレーゾーンではないかと思う事も職員で協議し身体拘束のないホームを目指して入居者様に精神的弊害が生じないように努めています。  
 ・ホームが開設して日が浅いため、職員間の連絡事項・ご家族様への伝達遅れなどあり、ご指摘を受けることもありました。がホームの成長課題として、反省と向上心を持って全職員でホームの運営に尽力をつくしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和2年12月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日の申し送り後、運営理念とホーム理念を斉唱し、意識付けを行っている。又、ご利用者の前で斉唱し、「私たちはこのようなホーム作りをしていきますので宜しくお願い致します」と伝えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症対策の為、地域との交流は行えていない。近くには小学校や保育所もある為、今後は世代間交流も行っていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染症対策の為、実施できていないが、今後は、運営推進会議やお便り等で、認知症対応の実際や知識を発信していきたいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や関係機関からの質問には的確に返答し、意見に関しては速やかに検討し、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加や、事故の報告等、細目に連絡を取っている。今後も協力関係を構築・維持していきたい。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して、委員を中心に、3か月に1回研修を実施している。グレーゾーンに当たるケアや、言葉での拘束等についても、ユニット会議で意見を出し合い、随時検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修実施の他、日常的に自分たちのケア(身体的ケアの他、声掛け方法等も含む)について振り返るようにしている。		

グループホーム あさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所開設前の研修で実施。今後、今年中に研修予定を組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に書類をお渡しし、内容を確認して頂いた上で、当日再度、細かく説明をしている。説明の間で都度、疑問点が無いかの確認を行い長時間の契約時間の効率化を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時の近況報告の際に、意見を頂戴している。頂いた意見に関しては、速やかに検討し、改善対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を聞きやすい環境づくりをしている。事前アンケートを配布したうえでの個人面談も実施し、ホームで解決できる内容は役職者で速やかに話し合い、法人事務局の判断が必要な部分は伝え、職員の意見を反映できる様、努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から挙げた意見や要望に関して、管理者が法人事務局を通して代表者に報告している。法人事務局や代表者は、意見や要望を検討し、働きやすい環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染症流行のため、予定していた外部研修は実施できなかった。内部での研修や、WEB研修等で、スキルアップできる様、働きかけている。又、資格取得制度もあり、対象者には随時声をかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症流行の為、実施できていないが、今後は、千歳市介護医療連携の会主催の研修会に参加し、他事業所や多職種と交流ができるようにしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族にこまめに状況報告し、意見を頂戴し、又、センター方式シートの活用、ゆっくり話をする時間を設けるなどの対応で、不安を解消して、早期に信頼関係を構築できるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に意見や要望をお伺いする他、入所後は最初の1か月は特に細目に状況を報告し、随時意見や要望を伺っている。その後も、ケアマネや居室担当者から随時連絡と近況報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人との面談、入所前の担当ケアマネもしくは施設職員からの情報提供等から事前にアセスメントを行い、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき、職員は本人の行動をサポートするという考えの元で、できる活動を継続し、難しいことでもできる可能性を探りながら支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や通院対応、必要物品の準備、本人らしい生活の実現のための相談等を行う事で、ともに支えていける様、関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症流行の為、外出制限があるが、面会は決まり事を守った上で可能である為、関係を継続できている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、互いに気遣い、同じ空間に自然に集まる様子がある。耳が遠いご利用者や、認知症状が重度のご利用者に関しては、職員が間に入り、橋渡しすることで、良好な関係性を築くことが出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご利用者に関しても、必要があれば相談できる関係性を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や、ご家族からの聞き取りから、思いや希望、意向を把握できる様、努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご家族にライフヒストリーを記入できる用紙を配布し、その人らしさを把握できる様、努めている。その他、入所後の会話の中からも随時ライフヒストリーをお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所当初は、センター方式シートを活用、その後は、申し送りノートや日常の話し合い、ユニット会議、サービス担当者会議等で現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やユニット会議、本人からの聞き取り、家族からの意見・要望の反映にて、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の変化や気づきは、特記事項に記載している。また、申し送りノートやヒヤリハットの活用で、情報を共有しながら介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	開設して間もないため、多機能化までは至っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症流行に伴い、地域資源の活用は行えていない。今後は、ボランティアの活用なども含め、豊かな暮らしの実現に努めていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、提携医療機関の訪問診療を受けているが、専門医の受診など、入所前からのかかりつけ医受診を継続しているケースも複数ある。随時、ご家族と本人の意向を確認して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週の訪問看護での報告・相談の他に、体調不良等、不安なことがあれば、随時医療機関に電話連絡し、助言をいただいている。(24時間電話対応可)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入院に至った経緯や生活状況に関する情報を提供し、入院中は随時、入院中の様子を病院相談員を通して連絡を取り合うことで、早期の退院に向けて協力体制を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に意向を確認している。その後、状態が変化した際は、再度、意向を確認し、本人・家族とも後悔のないような支援ができるよう、配慮をしている。結果は、医療職やスタッフにも周知し、チームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルがある。その他、「急変時ファイル」を準備し、「フェイスシート、保険証のコピー、薬情報」等をファイリングすることで、対応時に焦らない様、準備している。訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定での訓練は1度実施したが、一部の職員だけの参加であった為、全員が身につけてはいない。マニュアルの整備と共に前職員が身につけることが出来る研修体制づくりが必要。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格に合わせた言葉かけを行っている。基本的には「です・ます」調で言葉かけを行っている。また、ユニット会議等で、不適切な言葉かけや対応を行っていないかの振り返りを実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択が必要な場面では、自己決定できる様、選択肢を準備して答えやすいよう、配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は存在しているが、それ以外の場面では、その日その日の利用者の状況に合わせ、そのペースや動きに寄り添うという思いで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は、利用者の意思を尊重している。髪型も、希望に沿って対応している。		

グループホーム あさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付けには利用者に参加して頂き、食材の切り方から味付け、盛付等、意思を確認しながら行っている。嗜好にもできる範囲で対応している。誕生日には、好きなメニューを提供できるよう、配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や量は、利用者個々に合わせて対応している。水分も、好みの飲料を提供したり、細目に提供したりすることで、摂取量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施するとともに、必要に応じて歯科往診を実施し、定期検診にて口腔内の衛生・機能保持を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の誘導だけでなく、訴え時や、記録から排泄間隔を予測し、随時のトイレ誘導を行う事で、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のヤクルトの提供を含む水分摂取や、押し麦入りご飯の提供などの食事の工夫、日常の体操などによる運動量の確保と共に、必要に応じて医師に相談し、適切な内服薬の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は固定だが、時間帯は、利用者と相談の上決定している。また、体調不良や疲労感等が見られる際は、随時曜日の変更対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や疲労感を考慮し、一人一人に合わせて適切な休息時間を確保できる様、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報の確認を実施している。また、内服薬が変更になった際は、意思や薬局からの注意事項を申し送り共有し、内服後の状態の観察と報告を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味・嗜好を考慮し、家事活動などの役割をもった生活や、楽しく、そして穏やかな生活を送ることが出来る様、好みの動物番組の鑑賞の機会の提供、歌唱活動の機会の提供などの支援をしている。		

グループホーム あさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染流行に伴い、現在は実施できていない。今後は、ご家族や地域住民の方々とも協力し、地域の一員として生活できる様、支援していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの方針で、金銭管理は行っておらず、ご家族対応となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人やご家族の希望があれば、電話やテレビ電話、手紙のやり取りができるよう、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾をしている。その他、共用空間を利用者とともに清掃することで、その際の状況から、混乱を招くと思われる状況は随時解消できるよう、努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂テーブルやテレビ前ソファには、利用者自ら集まり、談笑している様子がある。食堂テーブルは、3か所に分けて設置することで、一人を好むご利用者は一人になれるよう、配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や、随時、なじみの家具や小物を持ち込んでいただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設置して安全確保するとともに、トイレや居室にはわかりやすく表示をしている。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホームあさひの家千歳

作成日：令和 2年 12月 28日

市町村受理日：令和 3年 1月 4日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	・馴染みの関係性を継続するツールの充実。	・コロナ禍で馴染みの人や場との関係を継続することができる。	・感染対策を行ったうえでの面会の継続と利用者と馴染みの人との連絡、手紙のやりとりの実施。 ・毎月お便りの発行を実施する。 ・ご家族の意見や意向の把握の為、アンケート用紙を発送し、返信については、事務局宛てにする事で、意見を出しやすくできるよう配慮する。	3か月
2	35	・火災や地震、水害等の災害時の避難等の対応について全職員が周知できていない。 ・コロナ禍で、近隣住民との協力体制が構築できていない。	・災害時などの対応について、全職員が周知する。 ・近隣住民との協力体制の構築。	・火災や地震発生時の災害種別ごとのマニュアルを整備する。 ・夜間を想定した消防訓練の実施。 ・町内会長をもとに、災害時の協力体制について確認する。	3か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。